

学 位 論 文 要 旨

氏 名 尾矢 貞雄

題 目「三度の繰り返し」に着眼して文学的な文章を読み解く方法の開発に関する研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究は、義務教育年間における文学的な文章の読解において、場面を単位として継時的に全体構造をとらえ、物語の基本4場面構成（「前ばなしの場面」「出来事の展開場面」「クライマックスの場面」「後ばなしの場面」）で読み解いていこうとする、顕在的な「表の筋」の把握が主流をなす読解指導の現状に対して、物語の展開を暗示したり方向付けたりする、潜在的な「隠れた筋」を読み解くための方法の一端を提案することが目的である。そのために、物語の構成要素や構造の理解にかかわる先行研究を整理し、物語の成分構造を生成する統語規則と物語の意味表現を決定する意味解釈規則のルール体系をまとめた「物語文法」における、エピソードの意味的な結合関係にかかわる解釈と、ロシアフォルマリズムにおける魔法昔話の構造分析やヨーロッパ昔話や日本の昔話に見られる物語展開の特徴である「三度の繰り返し」を糸口にして、国語教科書に所収の小学校319作品および中学校179作品について、その展開の特徴を、エピソードの「三度の繰り返し」を視点に分析を試み、新たな読解指導の方法を探った。

構造分析を行った結果、小学校においてはエピソードの「三度の繰り返し」構造を持つ作品を40作品（全体の12.5%）確認し、中学校では41作品（全体の23%）確認した。昔話に限らず様々な物語にエピソードの「三度の繰り返し」が存在すること、中学校の物語教材の20%以上がエピソードの「三度の繰り返し」構造を持つことが明らかになったことは、「三度の繰り返し」構造に着目して教材を読むことの有効性に期待をもたせる結果となった。

そして、小学校と中学校の教材の特徴を比較分析し、小学校、中学校の教材はともに「単数型」が多く、その構造上、大きな差異は見られないこと、エピソード間の意味の関係性を読み解く難易度は、小学校よりも中学校の方が高いこと、中学校教材の方が、小学校教材よりも解釈の多義性を有していることという三点の特徴を明らかにした。そして、小学校及び中学校の教科書教材を具体的に用いながら、授業化に向けた検討を行い、授業化の方向性を示した。

また、分析の過程で、エピソードの「三度の繰り返し」構造に「額縁型構造」を併せ持つ作品を多く認めた。そこで、異なる二つの構造が共起する作品に見られる特徴、そして、異なる二つの構造が共起する作品を読み解く際の効果的な「読みの視点」の開発について検討を加えることとした。分析の結果、エピソードの「三度の繰り返し」構造に「額縁型構造」が共起する割合は、小学校では12.5%、中学校では26.8%であった。そして、異なる二つの構造が共起する作品の構造に関する特徴や傾向についてさらに分析を進めると、「額縁型構造」の多くは「単数型」に共起する傾向があること、中学校では「片額型構造」と共起する傾向があること、異なる二つの構造が共起する際、小学校では「類似関係」が多く、中学校では「対照関係」が多いこと、そして、エピソードの「三度の繰り返し」のほとんどが、「額縁型構造」の「絵画（回想部）」に出現することが明らかになった。語られる内容のすべては、「過去の回想」に関するものであった。また、構造が共起する際のエピソードの「三度の繰り返し」に表現される内容について、「前額型構造」の場合、「中心人物の変容」や「登場する中心人物の関係性の変容」が表現され、「両額型構造」の場合は、「作品のテーマ（主題）と結び付く内容」や「中心人物の変容へと直接結び付く内容」が表現され、「後額型構造」の場合は、「中心人物の変容」や「後額の内容と類比・対比させる内容」が表現される傾向にあることを明らかにした。そして、異なる二つの構造に着目した新たな読解指導の開発について、具体的な教材を用いて提案を行った。

本研究を通して、「三度の繰り返し」という特徴的な構造を持つ「反復」と「対比」から物語の主題を読み解いたり、人物像を鮮明に浮き彫りにしたり、物語の展開を予測して読んだりすることが可能になることを提案することができた。また、「三度の繰り返し」に「額縁型構造」という異なる構造が共起する場合の読解方法の提案も行うことができた。これまで行われて来た学校現場における読みは異なる、読みの方法論の一端を提案することができたと考えている。

ただし、今回分析の対象とした物語は、教科書に採録されている紙幅に制限のある比較的に短い物語である。例えば、紙幅に制限のない長編小説の場合について、同じく「三度の繰り返し」が作品の展開に仕掛けられているのかどうかは定かではない。本研究の成果が適用できる範囲は、教科書に採録されている物語に限定されるものである。